

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	地域と関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例
-------	--------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

山形県南陽市

○学校名

南陽市立赤湯小学校、南陽市立赤湯中学校

○学校のURL

赤湯小学校 (<http://akasyo.da-te.jp/>)

赤湯中学校 (<http://akatyu.sakura.ne.jp>)

2. 学校紹介

○学級数

<南陽市立赤湯小学校>

【通常の学級】 1 学年 4 学級、2 学年 3 学級、3 学年 3 学級、4 学年 4 学級、
5 学年 3 学級、6 学年 4 学級

【特別支援学級】 2 学級、 【合計】 2 3 学級

<南陽市立赤湯中学校>

【通常の学級】 各学年 4 学級で 1 2 学級

【特別支援学級】 2 学級 【合計】 1 4 学級

○児童生徒数

<南陽市立赤湯小学校>

【全児童生徒数】 5 6 7 人（平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日現在）

（内訳：1 学年 102 人、2 学年 76 人、3 学年 90 人、4 学年 104 人、
5 学年 80 人、6 学年 115 人）

<南陽市立赤湯中学校>

【全児童生徒数】 3 3 9 人（平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日現在）

（内訳：1 学年 102 人、2 学年 116 人、3 学年 121 人 ）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成 2 7 年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

<南陽市立赤湯小学校>

【学校の教育目標】

- ・ 思いやりのある子どもの育成 （徳）
- ・ 進んで勉強する子どもの育成 （知）
- ・ 明るくじょうぶな子どもの育成 （体）

【人権教育に関する目標】

「たくましく生きぬく力の育成」

＜南陽市立赤湯中学校＞

【学校の教育目標】

「自主・自立」

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 自ら考え、進んでやり遂げる生徒 | (自主・自律) |
| 2 真剣に学び、深く追求する生徒 | (真理・探究) |
| 3 心豊かで思いやりのある生徒 | (友愛・協力) |
| 4 心と体を鍛え、ねばり強くやりぬく生徒 | (鍛錬・不屈) |

【人権教育に関する目標】

「いのち輝く、いじめのない学校づくり」

○人権教育に係る取組一口メモ

＜南陽市立赤湯小学校＞

地域総合型教育の推進のもと、人権教育を核としたいじめ・不登校・問題行動等の未然防止を目指した教育活動を展開し、たくましく生きぬく力を育成する。

＜南陽市立赤湯中学校＞

1 地域総合型教育の推進

今日、社会的要請、時代的要請を受けた様々な教育課題があり、従来の学校教育の枠の中だけでは、解決が難しい状況である。そこで、地域の教育機関や団体、個人の持つ教育機能を活用し、それらと連携・連動・一体化を図りながら成果を高めていく地域総合型教育を展開する。

2 社会参画活動の推進

社会参画活動を学校教育の中に戦略的に位置づけ、地域の理解や協力を得ながら、生徒の自主・自立の力を育成する。

3 幼保小中一貫教育の推進

特色ある学校経営を校区内に有機的に広げ、地域総合型教育の実践と連動させながら、教育理念を共有し、目指す児童・生徒像を掲げ、教育計画、指導プログラムを発達段階に応じて系統的に作成し、学校間・校種間の連携を強化する幼保小中一貫教育を推進する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

＜南陽市立赤湯小学校＞

I ふれあいや仲間意識を意識した児童の主体的な活動の取組

兄弟学級での子供主体の活動を通して、仲間とふれあうことの心地良さや充実感・達成感を味わい、自己肯定感や自己有用感を高め、自力解決の力を高めていく。

II 地域の講師を招聘した講演会や講習会の開催

子供のいのちや生き方在り方や発達障害の理解、地域の伝統文化、情報モラル、Q Uアンケートの望ましい活用等、これから求められる教育の在り方を考える。

III 人権を意識した学習の展開

いじめの根絶、認知症への理解、障がい克服した生き方等についての学習を通して、人権に対する理解を深め、これからの生き方・在り方に生かそうとする態度を育てる。

Ⅳ 地域の支援を活用した取組

地域の教育力を生かし、定期的な読み聞かせや図書館の整備、花と緑に囲まれた教育環境の整備、安全安心な活動の見守り等、子供たちの心を育む地域支援ボランティア活動を展開する。

＜南陽市立赤湯中学校＞

Ⅰ 「いのち」をつなぐ ～校内生徒指導推進体制の充実～

(1) 生徒指導体制の強化

- ・ 生徒指導共有化会議等による全職員の個の情報の共有。
- ・ 日常の教職員相互の複眼的な見立てとチームによる生徒や保護者への関わり。
- ・ 各学期実施の生徒理解アンケート、各調査等による個の丁寧な見取り。

(2) 授業と体験活動の充実

- ・ 一人一人が生きる授業づくりと個の学力向上。
- ・ 道徳の授業の充実と朝読書や「1日読書の日」による情操教育の一層の充実。
- ・ 宿泊体験学習による人間関係作りの充実や職場体験等による進路意識の向上。

(3) 生徒会活動の充実

- ・ 「我ら赤中、生き方まっすぐ宣言」を核にした生徒会活動の創造と展開。
- ・ 「全校・学級の話合い活動」や「縦割り活動」等の一層の活性化。
- ・ 生徒会による「いじめ防止スローガン」の策定と深化。

Ⅱ 「地域」とつながる ～保護者・地域との一層の連携～

(1) 小中間の連携の強化

- ・ 3校代表による小中定例連絡会（毎月開催）における共通理解。
- ・ 小中授業交流の活性化と合同行事の一層の連携。
- ・ 小学生の登校を守る「交通安全ありがとう運動」の継続と指導体制の充実。

(2) 家庭との連携の充実

- ・ 学校だより、学年・学級だよりの発行等による情報発信。
- ・ 「学校いじめ防止条例」のHP公表等による理解啓蒙とPTAによる情報機器用の「ガイドライン」の策定。
- ・ 授業参観やオープンスクール、保護者向けSNS関係の講演会等の実施。

(3) 地域との関わりの充実

- ・ 地域の運動会や祭りへの参画等、地域総合型教育の充実。
- ・ 「赤湯生き方まっすぐミーティング」による地域懇談会等の継続。「教育を語る会」（学校評議員）の開催と、連動した学校評価の実施。

3. 特色ある実践事例の内容

<南陽市立赤湯小学校>

I ふれあいや仲間意識を意識した児童の主体的な活動の取組

○兄弟学級や赤中生との子供主体の活動を通して、仲間とふれあうことの心地良さや充実感・達成感を味わい、自己肯定感や自己有用感を高め、自力解決の力を高めていく。

- ・ 児童会スローガンの設定と主体的な活動の推進
「自ら動く赤小生 広がる笑顔 つながる心」
- ・ あいさつ運動 通年
- ・ 小中合同まっすぐクリーン作戦Ⅰ 6月25日(木)
- ・ 夏休みサポート学習会 8月4日(火)
- ・ 小中合同まっすぐクリーン作戦Ⅱ 8月26日(水)
- ・ なかよしDAYとなかよしタイム 11月27日(金)
- ・ オープンスクール 12月3日(木)

II 地域の講師を招聘した講演会や講習会の開催

○子供のいのちや生き方在り方や発達障害の理解、地域の伝統文化、情報モラル、Q Uアンケートの望ましい活用等、これから求められる教育の在り方を考える。

- ・ 創立記念集会 6月8日(月)
- ・ 救命救急講習会 6月12日(金)
- ・ 子供のいのちを考える集会 7月23日(木)
- ・ 特別支援教育研修会 7月30日(木)
- ・ 暴れ獅子太鼓の活動と「ふるさと祭り」への参画 9月12日(土)
- ・ 親子で学ぶ情報モラル講習会 11月12日(木)
- ・ Q U研修会 11月12日(木)
- ・ 地域ネットワーク「赤湯生き方まっすぐミーティング」 11月14日(土)

III 人権を意識した学習の展開

○いじめの根絶、認知症への理解、障がい克服した生き方等についての学習を通して、人権に対する理解を深め、これからの生き方在り方に生かそうとする態度を育てる。

- ・ 4年生：人の生き方に学ぶ講演会（障がいへの理解と生き方）
人権擁護委員による人権教室（いじめの根絶）
- ・ 5年生：民生委員による人権教室（認知症への理解）
- ・ 6年生：人権擁護委員による人権教室（人の生き方）
- ・ 全校生：不審者対応避難訓練

IV 地域の支援を活用した取組

○地域の教育力を生かし、定期的な読み聞かせや図書館の整備、花と緑に囲まれた教育環境の整備、安全安心な活動の見守り等、子供たちの心を育む地域支援ボランティア活動を展開する。

- ・ 読み聞かせボランティア 通年で月に2回程度

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・ いきいき図書館ボランティア | 毎週木曜日の午前中 |
| ・ 花と緑のボランティア | 年間 5 回 |
| ・ 子供の見守りボランティア | 毎週月曜日のロング中間休み |
| ・ ボランティア感謝の会 | 1 2 月 3 日（木） |

＜南陽市立赤湯中学校＞

1 取組のねらい、目的

激動の 21 世紀社会を生き抜くための強くしなやかな人間力の醸成を図るため、いのちの尊厳や人権意識の尊重等に配慮した指導の充実を図る。

2 取組を始めたきっかけ

携帯電話や情報通信端末機器等の一般家庭への流布により、LINE やメール等 SNS 全般のやり取り等に伴う生徒指導上の課題も散見されるところであり、校内における指導体制を充実させていく必要性が高まってきている。これらの諸課題に対して校内だけに止まらず、保護者や地域の協力体制の強化が必要になってきている。さらに、いじめ問題が大きく取り上げられる中で、指導の必要性がより一層強まってきており、本校でも昨年度「赤湯中学校いじめ防止基本方針」を策定・公表し、いじめ防止の取組を強化してきたところである。また、これまで実施してきた『我ら赤中、生き方まっすぐ宣言』を核にした生徒会活動の創造により丁寧な自治活動が展開されてきているが、更に今までの取組や指導の在り方について、「いじめ防止・不登校根絶」の観点から整理し、いのちの尊厳や人権意識の尊重等に配慮した研究・実践を行っていく必要があるものと考えた。

3 取組の内容

- (1) 道徳の授業の充実（時数確保、学年全体での取組、担外教員による授業、教材の交流等）
- (2) 小中交流授業（小・中学校教諭による相互乗り入れ授業）
- (3) 校内研修（年 3 回の校内授業研究会の実施）
- (4) 教育相談、アンケートの実施（学期 1 回自分を見つめ、これまでの学校生活を振り返り、それらを基にした担任による継続的な教育相談とスクールカウンセラーによる相談）
- (5) 毎週 1 回の運営委員会で各学年の生徒の情報交換
- (6) 応援クラスマッチ（縦割り学級による組織作り・応援活動）
- (7) 児童生徒を語る会（小中の教員による研修会と情報交換、小学校教諭による中学一年生への授業）
- (8) PTA 総会・地域懇談会でいじめ防止基本方針の説明
- (9) 地域懇談会（幼保小中の保護者や地域住民がグループに分かれ「学校、家庭、地域が一体となったいじめ問題への対応」をフリートーク）
- (10) 小中クリーン作戦（小中の児童生徒が地域に出て清掃ボランティア）
- (11) 全校話し合い活動（住みよい街づくり・体育祭の競技でけがをしないために）
- (12) 小中連携夏季研修会（小中一貫教育の意義、重点課題についての共通理解）
- (13) 学習ボランティア（中学生が小学生に学習指導・小学校教員が中学 1 年生へ学習指導）

- (14) 1年生人権教室（人権擁護委員を招聘）
- (15) 赤湯温泉ふるさと祭りへの参加（樽御輿・本神輿：地域の活性化に寄与）
- (16) 1年生宿泊体験学習
- (17) 体育祭（地域ふれあい競技）
- (18) 赤中祭（地域ふれあい体験講座）
- (19) 各行事後の振り返り（頑張りを認めるコメント 教員・生徒同士）
- (20) まっすぐミーティング（安全・安心な街づくりについてフリートーク）
- (21) 読書会（異学年交流）
- (22) 赤湯中学校区「小中生徒指導連絡協議会」での情報交換
- (23) 6学年による中学校体験授業と生徒会活動の説明
- (24) 新入生保護者説明会

4 取組の主体や実施体制

全教育活動を通じた活動のため、全職員で主体的に取り組んだが、主な主体は下記の通りである。（全体統括：教頭）

- (1) 地域総合型教育：教務部
- (2) 社会参画活動：特別活動指導部
- (3) 幼保小中一貫教育：教務部
- (4) 授業改善：研究主任、学習指導部長を中心に校内研究推進委員
- (5) その他、渉外：教頭、教務部

（特に、「赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会」と連携）

5 取組の頻度

年間教育計画に基づき日常的に実践した。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

＜南陽市立赤湯小学校＞

I ふれあいや仲間意識を意識した児童の主体的な活動の取組について

昨今の子供達の育ちや生活環境から、コミュニケーション能力の低下が課題となっている。その課題解決と自力解決力の育成を図り、自立した人間へ育て上げるため、赤湯中学校区における幼保小中一貫教育を進めている。

その過程において、表現力の乏しさが課題の一つに挙げられている。様々な取組を通し、学年を超えた校内での発表等では、大きな声や堂々とした姿で話したり発表したりすることができるようになっているが、相手意識を持って自分の考えを伝えたり、相手の考えから自分の考えを修正して伝え直すことにまだまだ課題が見られる。また、あいさつも含め、校内では明るく元気な取組ができるようになっているが、地域に出るとなかなか自分を表現できず、地域の方へのあいさつもできなくなってしまうという課題がある。

この課題解決に向けて、児童会運営委員による活動、登校班の班長による活動に結びつけ、子供達の主体的な活動を通して現状把握や目標設定等がなされるようにし、自覚と納得を促す取組を大切にしていきたい。

また、具体的な幼保小中一貫教育推進に当たり、その打合せや調整の時間の確保が大きな課題になっている。そのため、どうしても事業消化に偏りがちに

なることから、取組や活動のねらいを明確にすることと必ず児童生徒の自治活動にすることを最低限の共通理解とし、活動の充実を図るようにしている。

Ⅱ 地域の講師を招聘した講演会や講習会の開催について

地域総合型教育を推進し、学校を解放しながら子供たちの活躍の様子や日常の様子を保護者や地域の方々に見ていただくとともに、地域の教育力を生かした教育実践を行う中で、地域の方々のお話や講話・講演は、子供たちの心の成長や自立に大変効果的である。特に、例年7月中旬に行っている「子供のいのちを考える集会」では、保護者を対象に講演会や研修会を設定し、保護者の方にも大変好評を頂いている。その反面、授業参観と重ねて開催しているものの、すべての保護者の参加までは至らず、大きな課題となっている。事前に開催内容等は紙面でお知らせし、参加者を募るが、できるだけ多くの保護者の方に参集いただくため、PTA役員の方々の御協力も頂き、直接、お声がけいただいたりお誘いいただいたりしている。

今後、集会や講演会・研修会のテーマがマンネリ化しないよう、また、子供たちの実態と保護者のニーズに合わせた内容を吟味しながら成果を高めたい。

Ⅲ 人権を意識した学習の展開について

前述の講演会・研修会と同様、様々な方々のお話をお聞きすることは子供たちの成長に大きな成果をもたらしている。特に、人権に関わる内容は多岐にわたることから、それぞれの分野で活躍なされる方々のお話には、学年関わらず、子供たちの心に染み渡っている様子が窺える。

今年度は、自らの障害を克服し、社会貢献を通してよりよい社会づくりに尽力している地域の方のお話をお聞きした。対象は4年生であったが、大変心に響く内容で子供たちも勇気づけられた。その方は、講演はもとより様々なアイデアを駆使し具現化を図る活動（例えば、障害者用駐車場スペースをみんなで作る「ブルーペイント活動」等）に取り組み、小学生でも参画できるアイデアを提案していただいた。人権教育として、今後できる限り取り入れたいと調整をしているが、予算的な課題、教育課程上の時間確保の課題が挙げられる。予算面では、関係機関に働きかけをしながら調整したいと考えているが、時間確保については、次年度教育課程編成時から見通しを持って計画を進めなければならない。

しかしながら、教育実践が多岐にわたればわたるほど、想定外の時間確保が求められる現実もあり、その調整が大きな課題である。

Ⅳ 地域の支援を活用した取組について

本市の「地域総合型教育」に対する理解も深まり、本校では多くの地域の方々の教育的支援を頂き、大変感謝している。本校における地域支援ボランティア活動では、本校職員ではない地域の方が自らコーディネータとなって、様々な活動を支えてくださっている。

ここ数年、この取組が継続されているが、参加される保護者や地域の方の他、子供たちの祖父母も大変多い。しかしながら、少しずつ高齢化がみられることやボランティアをしてくださる方が固定化してきている現状がある。また、コーディネータの方も長年にわたり献身的に尽力いただいているが、その後継者

が今後の課題になるものと考えている。様々な活動に大きな理解と支援を頂いているものの、コーディネートとなると、高いハードルになっているようである。現在のコーディネータとはその点で、継続的に協議し、後継者育成・発掘に努めている。

＜南陽市立赤湯中学校＞

1 取組を実施する際に生じた課題

(1) 活動の意義の共通理解と価値づけ

毎年人事異動で人が入れ替わることを考えると、人権教育の意義、必要性、それぞれの活動の価値づけを十分に行い、ねらいや目的の共通理解を年度初めに図っていかねばならない。

(2) 外部との連携、共通理解

本校教育活動の特色を考えると、小中一貫教育や社会参画活動等、外部機関との連携・協力が不可欠であり、常に、きめ細やかな連絡・調整が必要である。

(3) 教育課程における考慮

授業時数、諸行事、その他の教育活動を含め、教育課程を柔軟かつ大胆に編制していく必要があり、教職員の多忙化への対応も含め、検討を要した。

(4) 効果検証の在り方

取組の効果検証は、改善・改革の視点で必要不可欠である。具体的な効果検証の内容を、その後の教育活動に生かすための共通理解と検討の場が必要であった。

2 課題に対する解決方法

- ・ 週一回の運営委員会を機能させ、情報共有を図りながら、課題把握に努めた。
- ・ 月1回の小中定例連絡会において、丁寧な情報交換と常に児童・生徒の視点で必要事項の検討を行った。
- ・ 取組後に客観的評価を行い、その成果と課題を共有する場を設け、PDCAサイクルの構築を図った。

5. 実践事例の実績、実施による効果

＜南陽市立赤湯小学校＞

【取組が効果を上げた実際の事例】

I ふれあいや仲間意識を意識した児童の主体的な活動の取組について

○ 「なかよしDAY」の取組

本校では、兄弟学級（1・6年、3・5年、2・4年）で活動する場を設定している。特に「なかよしDAY」では、兄弟学級ごとの話合いや一緒に活動を通し、考えて行動する主体性を育むことと異年齢集団の中で自分の気持ちを伝えたり、相手が伝えたいことを聴いたりできるコミュニケーション能力を高めることをねらいとして取り組んできた。

大きな内容として、子供たちが主体的に考えたウォークラリーやそのチェックポイント運営を行うが、昨年度以上に子供たちの手に委ねて取り組んだ。

上学年の子供たちはいかに下学年と優しく接し楽しませることができるか、下学年の子供たちはきちんと自分の思いを伝えたり話を聞いたりして楽しむことができるかを意識しながら活動し、予想以上に互いのふれあいときずなを深めつつ、自らすべきことを率先して行い、自己有用感を得ながら達成感・充実感を味わうことができた。

○ 夏休みサポート学習会の取組

赤湯中学校区（赤湯小・中川小・赤湯中）における幼保小中一貫教育の取組の一つとして、今年度新たに夏休みサポート学習会を実施した。これは、本校を会場に中学生が小学生に勉強を教えるという取組である。1年生から6年生までの希望参加者に対し、中学3年生がミニティーチャーとして夏休みの宿題や苦手な問題を丁寧に教えるものである。小学生は中学生に対する憧れと学ぶ意欲を高めながら学習に望むことができた。また、中学生は、小学生の目線や立場に立って、わかりやすく教えるとはどういうことかを自問自答しながら活動した。

小学生の学習という面では、意欲的な高まりと持続的な集中力が見られ、また、中学生にとっては、他人に伝えたいことを丁寧に伝えることの難しさを学び、大変効果的な取組となった。次年度は、更に日程を調整しながら充実を図る予定である。

Ⅱ 地域の講師を招聘した講演会や講習会の開催について

○ 親子で学ぶ情報モラル講演会

I C T機器の扱いやネットトラブルへの対応が年々深刻化する中、子供たちはもちろん、教師も保護者も情報端末の取扱いや情報モラルについて学び続けることがますます求められる。そこで、今年度は、ゲーム会社でなじみのある「GREEN株式会社」のインストラクターをお招きし、対象を全保護者と4年生以上とした講演会を実施した。

「日常生活でやらない・やってはいけないことは、ネット上でも同じである」ことを様々な事例を元にして大変わかりやすく講演いただいた。何げないネットへの書き込みが、「今の自分だけでなく、将来の自分も苦しめてしまうこと」を実感することができ、大変効果的な講演会となった。保護者の方からも、同様の意見を頂き、子供任せにしないことの必要性を実感していただくことができた。

○ 暴れ獅子太鼓の活動と「ふるさと祭り」への参画

本校では、「社会参画活動」にも取り組んでいる。これは、小学生と言えども、一市民であることの自覚を高め、市民意識を持たせながら郷土を愛する心を育む活動である。毎年9月、「赤湯温泉ふるさと祭り」が開催され、市内外だけでなく県外からも大勢の観光客でにぎわうお祭りになっている。そのお祭りを盛り上げる本地区伝統の「暴れ獅子太鼓」があり、クラブ活動を通して太鼓の伝統芸能継承に取り組み、更にその一環としてお祭りでの太鼓演奏を行っている。練習の過程では、地域の方の温かい励ましや継続的な技術指導を頂きながら伝統継承につないでいるが、地域の方の練習の活性化につながっているとのお話を伺った。更に当日は、地域の一員として祭りを盛り

上げる子供たちの姿とそれを温かく見守る多くの友達の姿があり、大きく成長する一日となった。

Ⅲ 人権を意識した学習の展開について

○ 人権擁護委員による人権教室

例年、4年生を対象に人権教室として講話を頂いている。この委員の方には、人権の花の植栽作業等でも御指導を頂いていることから、子供たちの育ちや成長をずっと見守っていただいている。そのため、その年度の学年の実態に応じて人権教室の内容を調整してくださったり、当日も子供の実態に合わせながら心に響く指導を頂いている。そのため、子供たちの心の変容が大きく、振り返りの作文や直後の言動からその成長ぶりが伺える。

さらに、その時々の子供の見取りや補足等を教職員に丁寧に教えていただけることから、本校職員にとっても学びの場となっている。

○ 自らの命を守る不審者対応避難訓練

火災・地震等の避難訓練は例年、定期的に行ってきたが、不審者が校内に侵入した際の避難訓練は、ここ数年実施していなかった。そこで、改めて対応の在り方を考え、教職員並びに全児童の共通理解を図り、校内に不審者が侵入した場合の対応と避難について実地訓練を行った。更に具体的指導を仰ぐべく、置賜教育事務所青少年指導担当の方を講師にお招きし、当日は、不審者の役を担っていただき、直接、指示や指導助言を頂いて訓練を終えることができた。

机上プランだけでは見えなかった細かな対応の動きや児童への避難指示の在り方等、子供たちの命を守るために必要な知識や行動等について学ぶことができた。また、全校児童の前でも講評と助言をいただき、「自らの命は自ら守ることの大切さ」を改めて実感することができた訓練となった。

Ⅳ 地域の支援を活用した取組について

○ 読み聞かせボランティア

月に2回程度、朝8時30分から15分間、地域の方に読み聞かせのボランティアを行っていただいている。地域の方が各教室に出向いてくださり、子供たちの前で、絵本や紙芝居の読み聞かせをしてくださっている。1年生から6年生までお話の世界に浸りながら、自分のイメージを膨らませて親しんでいる。「人のお話を主体的に聴く」ということを自然に体得し、それが学習の場面でも十分に生かされているものと捉えている。ボランティアの方も、毎回、教室を変えるだけでなく、本の内容を変えたり語り口調を工夫したりしながら、子供たちに接してくださっている。大変多くの方々がおいでくださっており、子供たちにも大変好評である。

○ 花と緑のボランティア

校内に幾つかの花壇があるが、その植栽や除草作業は、本校教職員だけではなかなか手が回らず、教育環境としてふさわしいものとはいえない時期があった。そこで、保護者や地域の手をお借りして、教育環境を整えるべく、この取組がスタートした。年5回とはいえ、土曜日の早朝作業であったが、回を重ねるごとに多くの方の御賛同を頂き活動することができた。子供たち

のお父さんお母さんだけでなくおじいちゃんおばあちゃん、そしてその地域のお友達等、たくさんの方にお手伝いを頂いている。また、そこに子供たちも主体的に参加するようになり、親子や地域の方々とのふれあいを通して、気持ちの良い汗をかき、教育環境の整備に努めることができた。

現在では、当日のお手伝いだけでなく、必要な花の種類や色彩も考えてくださり、みんなで楽しみながら活動に取り組んでいる。

＜南陽市立赤湯中学校＞

1 取組の実績

前述の3「特色ある実践事例の内容」に記載した取組の内容については、計画通り実践した。

2 取組が効果を上げた実際の事例

(1) 小中一貫教育

- 重点課題を受けた3つの部会の話合いと取組により、児童・生徒の生き生きとした学校生活につなげることができた。

【学力充実部会】【生徒指導部会】【コミュニケーション力育成部会】

- 小中教員の相互乗り入れ授業の実践により、学習活動を通し児童・生徒の意欲的な姿を引き出すことができた。
- 応援活動、奉仕活動、話合い活動等の児童・生徒交流により、自尊感情や自己有用感の育成が図られた。

【応援クラスマッチ】【小中合同クリーン作戦】

【中学生による小学生への学習指導】【SNSについての話合い活動】



(2) 社会参画活動

- 教育課程と地域行事を連動させ、児童・生徒が積極的に地域社会の一員として活躍する場を設定することで、地域社会の一員としての自覚、地域の発展に寄与する意識が高まった。
- 赤湯地区のネットワーク事業と密接に連携・連動し、児童・生徒の活動が安全・安心な街づくりに大きく貢献した。

【交通安全ありがとう運動】【市民運動会への全校生参加】

【ふるさと祭り神輿渡御】【さわやかマラソン】【市民なわとび大会】

【まっすぐミーティング：異年齢での話合い】



(3) 道徳教育

- ・ 学年単位で計画的に道徳教育に取り組み、道徳の授業と教育活動を結びつけながら、総合的に道徳的実践力の育成を図った。
- ・ 小中一貫教育の中で、道徳の交流授業、共通実践等を行い、主体的な学校生活につなげることができた。



3 取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

- ・ 目的、ねらいの共有と取組の焦点化。
- ・ マンネリ化解消を図るために、児童・生徒の新たな発想の喚起。
- ・ 成果と課題の共有と、その後の改善につなぐ協議。

6. 実践事例についての評価

＜南陽市立赤湯小学校＞

【成果】

- ・ 地域総合型教育の推進のもと、人権教育を核としたいじめ・不登校・問題行動等の未然防止を目指した教育活動を展開し、たくましく生きぬく力を育成するため、本校の教育課程を「桜水プラン」と名付け、年度当初に全教職員の共通理解を図りながら教育実践を展開することで、保護者・地域の信頼が高まってきている。
- ・ 学校評価アンケートからも、保護者の方の「桜水プラン」への理解や成果の評価が高く、子供たちの自力解決力の向上や有効性についての理解も深まっているように思われる。
- ・ 様々な活動や取組において、仲間と望ましい関わり合いやコミュニケーションを図ることを通して相手意識を持たせたり、子供たちの自主性・主体性を培うことを共有して指導を重ねることで、自力解決力の高まりが見られるようになり、他人に対する優しさや心の痛みを理解した言動も増えてきている。
- ・ 地域の方々や専門的知識・技能を有する方に講師をお願いし、物事の原理原

則につながるお話や本物に触れる場を提供して下さったりすることで、子供たちが自らの生き方・在り方について考える良い機会となった。

- ・ 人権教育という視点のみにとらわれず、子供たちのたくましく生きぬく力を育むという方向性を共有し、幼保小中がそれを意識した系統的・計画的な教育実践がなされるようになり、子供達の健全育成の基盤となっている。

【課題】

- ・ 子供たち一人一人の表現力が課題である。集団では、素直に表現できるようになっているが、地域での表現、特にあいさつに課題がある。学校評価アンケートでも保護者からの御指摘も見受けられ、自己肯定感とともに自立に向けた取組や教育課程の編成を検討したい。また、あいさつについては、トップダウン的な指導ではなく、子供たちによる自主的・主体的な活動や自浄作用を生かした活動を重視していくことが一層求められる。
- ・ 自力解決の力を更に高め、たくましく生きぬく力を醸成するためには、今以上に地域との連携を始め、中学校区間における目指す子供増や指導観の共有、具体的な教育課程の編成と取組の企画運営が求められる。次年度の構想に向けて、今から検討していかなければならない。

＜南陽市立赤湯中学校＞

1 取組についての評価、及びそう評価する理由

【成果】

- ・ 非行や生徒指導上の諸問題が明らかに減少している。
- ・ 授業に落ち着いて向かうことができている。

【課題】

- ・ 生徒の実態、発達段階を考慮した計画と実践が更に必要である。

2 保護者や地域住民からの反応

【成果】

- ・ 学校行事、学年・学級行事に多くの保護者の参加協力を頂いた。
- ・ 地域における挨拶が活発に行われている。

【課題】

- ・ 過密な教育課程であるため、一層の理解と協力を求めていく必要がある。

3 現在、実施に当たって課題と感じていること

- ・ 取組の目的、ねらいを共有し、児童・生徒の主体的取組としていくこと。
- ・ 信頼性、妥当性のある評価の在り方と改善につなぐ検討の場。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

南陽市立赤湯小学校、南陽市立赤湯中学校

地域性を生かした＜総合型の人権教育＞を推進し、成果をあげている。小・中学校（小2校・中1校）及び家庭・地域を巻き込んだ緻密な実践を展開し、特に、いじめや不登校の未然防止を目指した兄弟学級による「なかよし DAY」の取組、縦割りによる応援クラスマッチ、住みよい街づくりを目指す全校話し合い活動、赤湯温泉ふるさと祭りへ参加など、人権教育の土台となる営みが児童生徒の日々の学校生活に溶け込んでおり、さらには、子供個々の自力解決力の向上や仲間同士と望ましいコミュニケーション形成に資している。また、その背景として、子供の健全な発達成長を意図した幼保小中の一貫した系統的・計画的な教育実践の積み重ねを確認することができる。本事例は、これらの成果を子供個々の自己形成に資する学力の充実や自己肯定感の醸成などの評価として、個々の実践からの学びを＜子供・教師・大人＞の三者がそれぞれ実感し、共有されていることなどが、丁寧に検証されている。